

# CO \* Design 執筆要綱

(2017年8月1日改定)

## 1. 原稿の作成

原稿はワープロ・パソコンのワープロソフトを使用し、A4用紙に横書きで作成することを基本とする。文字数は、本文、図表、資料、注、引用文献などの全てを含めて下記の通りとする。

### 1.1 原稿分量

ここでいう「原稿」には、テキスト主体の原稿のみならず、画像・音声・映像主体のものも含む。

#### レポート（報告）

CO\*Design, 第2号より、論文、実践報告および研究ノートの投稿区分を廃止し、レポート（報告）とする。投稿ならびに依頼原稿からなるが、すべて編集部による査読あるいは閲読を受けるものとする。これらのレポート（報告）には〔投稿年月日〕と査読／閲読後の再投稿を経た〔受理年月日〕が文章末に記載される。受理の時期が遅れる場合は掲載を次号送りにすることがある。

#### レポート（報告）の構成と分量

##### (1) レポート（報告）の構成

外国語の場合の構成は、タイトル、著者の氏名と所属、著者情報（電子メール、URL）、アブストラクト、キーワード、序文、方法、結果、考察、結論、脚注、リファレンス（文献）、付録ないしは補足資料、邦文要約、〔投稿年月日〕〔受領年月日〕を基本とする。日本語の場合は、タイトル、著者の氏名と所属、著者情報（電子メール、URL）、要約、（外国語による）アブストラクト、キーワード（**keywords**）、序文、方法、結果、考察、結論、脚注、リファレンス（文献）、付録ないしは補足資料、邦文要約、〔投稿年月日〕〔受領年月日〕を基本とする。なお、これらの基本構成が守られていれば、順序や構成に変更を認めることとする（→2.1 原稿の構成、を参照）。

##### (2) テキスト主体の原稿の場合

20,000文字以内を目安とする。これを大幅に超える場合には、編集担当と著者との協議する。その協議の結果、組版および印刷費について課金をする可能性もある。英文抄録は省くことができる。

##### (3) 画像・音声・映像主体の原稿の場合

- ファイルの数およびサイズ： 数、サイズともに上限は設けない。なお、OUKAを通じた配信上加工が必要とされる場合は、編集担当と著者との協議する。
- テキストによる記述は、1,000字以上を目安とする。

## 1.2 本文の文字サイズ

10.5 ポイントとし、1 頁あたり 1,600 文字（40 字× 40 行）に入るように設定する。

## 1.3 提出物

Word 文書と PDF をエントリー時に指定された宛先にメールで送付すること。

## 2. 原稿の構成と記載事項

### 2.1 原稿の構成

下記の順にそれぞれ 1 行あけて書く。

- タイトル、サブタイトル（和文、英文）
- 著者名・所属（和文、英文）
- 著者情報（電子メール、URL 等）
- 邦文要約（500 字以内）・アブストラクト（200 words 以内）（テキスト主体原稿の場合のみ）
- キーワード（3 語程度）（和文、英文）
- 本文：序文、方法、結果、考察、結論等
- 脚注、リファレンス（文献）、付録ないしは補足資料。
- ※ [投稿年月日] [受領年月日] ※編集部記載

## 3. 図表・画像について（テキスト主体原稿の場合）

### 3.1 図表・画像を挿入する場合

- 図表・画像は、別紙（A4 用紙）にプリントアウトして、通し番号・題目・図版説明をつけ、本文中にその挿入箇所を指定する。別に刷り上がり見本も添付する。
- 通し番号は、「図 1、図 2、図 3、……」「表 1、表 2、表 3、……」のようにする。
- 題目は 40 字以内とする。
- 図表・画像説明（キャプションや出典など）は、図表・画像の一部に組み込む。出典の記載については、「5. 引用（参考）文献の記載方法」を参照のこと。
- 図表・画像をデジタルデータで提出する場合は、本文中と同一の「通し番号・題目」がわかるように ファイル名を付け、Word、Excel、PowerPoint で作成した場合はそれぞれの標準保存形式で、Illustrator、Photoshop の場合は EPS 形式で、それ以外の場合は JPEG（最高画質）、PNG 等の形式で作成する。
- 図表・画像の説明は本文とは別に、本文中の同一の「通し番号・題目」が判るようにファイル名をつけ、「.txt」の拡張子をつける。
- なお、映像の挿入については、映像番号と挿入箇所をテキスト原稿に明記する。

### 3.2 カラーの使用

- 文章、及び図表・画像にカラーを用いてもよい。
- ただし、印刷媒体では白黒印刷による表記となる。

## 4. 本文の様式

### 4.1 区分

本文における章・節などの区分は原則として次の通りとする。

- 大見出し → 1 2 3
- 中見出し → 1.1 1.2 2.1 2.2
- 小見出し → 1.1.1 1.1.2 1.1.3 2.1.1 2.1.2

### 4.2 和文の中の句読点

和文の中の句読点は、いずれも、全角の「。」と「、」とする。

### 4.3 単位

単位は国際単位（SI）を用いる。

### 4.4 脚注

- 脚注を要するときは、原則として本文の該当箇所に脚注番号を附し、本文中の注番号は全ページの通し番号とし、その位置は右斜め上とする。
- 脚注は「文末脚注」のみとする。

例：本文中の注番号は、下記の諸例のようにつける。

- - - - - によれば<sup>1)</sup>
- - - - - になってきたのである<sup>2)</sup>。
- 「- - - - である。」<sup>3)</sup>

### 4.5 半角入力

アルファベット・数字は半角にする。

和文中の欧文出自の約物や洋数字に所属した約物（例：!、?、/）、単位記号（例：cm、%）は、半角を使う。

### 4.6 半角かな

半角かなは用いない。

### 4.7 使用禁止文字

Windows および Macintosh などに固有の機種依存文字（外字）は基本的に用いない。丸数字「①②③❶❷❸」、ローマ数字「ⅠⅡⅢ」、特殊文字「㊦」「ℓ」など。

### 4.8 その他の入力時の注意点

- 「…」または「…」を使う。「・・・」や「・・・」としない。
- 「ー（長音符、音引き）」と「-（ダッシュ、ダーシ）」を混同しない。
- かっこは（ ）[ ]〈 〉《 》【 】〔 〕を使用し、使い分ける。

- <>（不等号）と〈〉（山括弧）を混同しない。

#### 4.9 書式の指示等

書式について、必要な場合（ルビ、脚注の上付き文字等）は朱書きで指示してください。

### 5. 引用（参考）文献の記載方法

#### 5.1 文献リストの順序

文献は、著者名のアルファベット順にしたがって文末で一括に配列する。

#### 5.2 書名等の表記

単行書名、雑誌名、新聞名はイタリックとする。

#### 5.3 その他注意

括弧を用いる場合は、すべて全角括弧（ ） [ ] とする。

書式指定で\_ とは、半角スペースを示す。

#### 5.4 文献挙示の具体例

##### 5.4.1 邦文単行書

- 著者名の姓と名の上にスペースなどは入れない。
- 著者が複数いる場合は、「・（中黒）」で区切って表す。著者が3名以上いる場合は、（他）などで適宜略記することも可。
- 著者名（出版年）『書名』出版社の順。
- （編）（監）および（出版年）の部分に使用する“（括弧）”は、必ず全角にすること。
- 半角括弧（ ） と全角括弧（ ） の違いに注意する。
- 編者・監修者などの場合は、（編）や（監）で表す。
- 書名の副題を示す場合は、「：」（全角）で区切って表す。（半角の場合は、： となるので注意。）

例

池田光穂（2010）『看護人類学入門』文化書房博文社。

阿部正浩・松繁寿和（編）（2014）『キャリアのみかた：図で見る110のポイント』有斐閣。

##### 5.4.2 邦文論文

- 著者名（出版年）「論文名」『誌名』巻（号）：ページ数の順。
- 「所収」などは書かない。
- 「巻」「号」などは表さず、数字と括弧のみで示す。その後、「：」（全角）をつけた上で所収ページ数を示す。
- その他、基本的に邦文単行書の場合と同様に示す。

例

平川秀幸 (2017) 「避難と不安の正当性：科学技術社会論からの考察」『法律時報』89 (8) : 71-76.

藤田隆則 (1995) 「古典音楽伝承の共同体：能における保存命令と変化の創出」 福島真人 (編) 『身体の構築学』 ひつじ書房 : 357-413.

#### 5.4.3 外国語文単行書

- 書名の後に「, (半角コンマ)」。最後に「. (半角ピリオド)」をつける。
- 著者名は、姓、名 の順で示す。著者が複数いる場合は、最初の著者のみ姓、名の順で示す。
- 著者が 3 名以上いる場合は、et\_al. で略記することも可。
- 基本的に、著者名を示す際に Kirp,D. のようなファーストネームの省略はしない。
- 編者は(ed.) で示す。
- 書名は斜体で示す。
- 書名の副題を示す場合は、「:」(半角) で区切って表す。

例

Peterson, Alan and Bunton, Robin (2002) *The New Genetics and the Public's Health*, London: Routledge.

Clifford, James and George E. Marcus (ed.) (1986) *Writing Culture: The Poetics and Politics of Ethnography*, Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

Kirp, David L. and Ronald Bayer (ed.) (1992) *AIDS in the Industrialized Democracies*, New Brunswick: Rutgers University Press.

#### 5.4.4 外国語文論文

- 姓、名\_(出版年)\_ “論文名” \_ 雑誌名(イタリックにする),\_(巻)号: ページ数の順。
- 論文名は引用符で区切る。その際、最後のコンマを引用符の中に入れる。
- 単行書に所収の場合、「in」を付す。
- その他、基本的に欧文単行書の場合と同様に示す。

例

Kobayashi, Tadashi (1999) "Japan's reception of science in the light of social epistemology," *Social Epistemology*, 13(3/4):251-256.

Bloch, Maurice (1992) "What Goes without Saying: The Conceptualization of Zafimaniry Society," in Adam Kuper (ed.), *Conceptualizing Society*, London and New York: Routledge, 127-146.

#### 5.4.5 翻訳単行書

- 原著単行書の挙示が必要な場合には、以下の形式で行う。
- 原著単行書の挙示のあとに、\_ = (発行年) 訳者姓名 (訳) 『翻訳書名』出版社の順。

例

Lave, Jean and Wenger, Etienne (1991) *Situated Learning : Legitimate Peripheral Participation*, Cambridge: Cambridge University Press. = (1993) 佐伯胖 (訳) 『状況に埋め込まれた学習 : 周辺状況参加』産業図書.

#### 5.4.6 翻訳論文

- 原著論文の挙示が必要な場合には、以下の形式で行う。
- 原著論文の挙示のあとに、\_ = (出版年) 訳者姓名 (訳) 「論文名」『誌名』(巻)号 :
- ページ数 の順。
- 原論文のページ数が不明の場合は、省略できる。

例

Ihde, Don. (1999) " Technology and Prognostic Predicaments, " *AI & Society*, 13. =(2001) 中村雅之 (訳) 「技術と予測が陥る困難」『思想』926:145-156.

#### 5.4.7 インターネット上の資料

- オンライン上の各種文献に関しては 5.4.1~5.4.6 に準ずる。
- 他のオンライン上の資料に関しては、著者名、タイトル、URL、確認日等を、適宜、脚注に記載する。

#### 5.4.8 引用方法

- 文中でふれる場合、著者名 [出版年] または 著者名 [出版年 : ページ数] という形で示す。
- 翻訳の場合は、二種類の発行年を「= (全角イコール)」でつなぐ。著者名については、姓のみを示すことを基本とし、同一の姓のものがある場合に限り姓名の両方を表記する。

例

Beck [1986=1998] によれば、…

西川 [2015:35] は…と論じているが、他方宮本 [2017] の近著において…

⇒姓 [出版年] 本文…または Family name\_[出版年]本文…とする。

- 引用して示す場合、前項の形式をそのまま括弧に入れた形で示す。

例

「…ではないだろうか」(内田 [2015:110] )。

…という議論を展開している(Bauman [2000=2001:223]、田中 [2010]、山崎編[2013]、MacIntyre [1984:177=1993:206] )。  
⇒引用文(姓 [出版年]、\_Family name\_ [出版年] )。 とする。